

平成26年度 協働事業振返り調査票

協働事業の名称 「患者さんと病院とのより良い関係の構築」

所属名(団体名) 市民公益活動団体地域ケアパートナーほっと

1 事業の振返り

振返り項目	振返り結果 1～5を記入	コメント(理由、感想、気づいたことなど)
1-1 協働相手の選定(市) 協働相手を公募しましたか。公募しない場合は、選定理由を明確にしましたか。		
1-2 協働相手の選定(団体等) この事業の協働相手として自分の団体はふさわしい団体でしたか。	5	本団体の持つ受診介助の知識と実績の面からふさわしいと思う
2 目的の共有 事業の目的・目標を共有しましたか。	5	ニーズ調査、受診サポーターの育成、実習、組織化について共有できました。
3 目的・目標の達成 事業の目的・目標は達成できましたか。	4	ニーズ調査、受診サポーター育成は目標を達成した。実習、組織化は現在も継続している
4 事業実施中の意見や情報の交換 適宜、意見や情報の交換を行い、必要に応じ協議事項の見直しを行うなど、柔軟に対応できましたか。	5	ニーズ調査、受診サポーター育成に関しては意見や情報交換は頻繁に行えた。実習、組織化については病院局との協議を行った上で柔軟に対応できた。
総合コメント ニーズ調査で声を集め受診サポーターの必要性が明らかになった。受診サポーター育成では17名の受講生が修了し、目標を達成した。実習に進むのは5名の目標であったが、15名が実習中である。組織化は3月31日現在継続中である。		

2 協働の振返り

振返り項目	振返り結果 1～5を記入	コメント(理由、感想、気づいたことなど)
1-1 協働の形態の選択(市) 選択した協働の形態(委託、共催、事業協力、支援・補助)は適切でしたか。		
1-2 協働の形態の選択(団体等) 自らの特性を活かせる連携方法でしたか。	5	事業運営拠点の確保をお願いしたが叶わず、事務所を持たない当団体は電話、メール、郵便を駆使し密な連携を図れた。
2 協働の意義の明確化 協働で実施する必要性やねらいを明確にしましたか。	5	市が課題として掲げた意義に対し、必要性や狙いを明確にした。
3 主体性・自主性の尊重 お互いを理解し、尊重して事業を進めましたか。	5	お互いの立場を理解し、主体性を以って事業を進めることができた
4 役割と責任の自覚 役割分担や責任の所在が明確でしたか。	4	当初の役割分担通りにはいかなかったが、事業の企画・準備・実施においては当団体が責任を以って実施した。
5 協働の成果 協働ならではの成果はありましたか。また、副次的な効果はありましたか。 副次的効果：会員が増えた、会員や職員の育成につながった、新たな事業展開や課題解決方法が見つかった等	5	海浜病院、あんしんケアセンターへの周知、会場の確保、市政だよりでの広報などを通じて事業全般がスムーズに進み、利用者の増加とスタッフの増員につながった。協働ならではの成果と思う。
総合コメント 協働事業の実施を通じ市との交流と信頼関係ができ、本事業の重要性を再認識してもらえた。今後は市から医師会・各病院に周知・連携することで受診サポーターの仕組みが広がると思われる。またこの協働事業を継続していくことで多くの受診サポーターを育成し、千葉市独自の取り組みとして確立していくことを期待したい。		

この振返りは、協働事業を行った双方が、協働事業への理解を深め、良好なパートナーシップを構築することにより、お互いに成長し、また、よりよい協働事業の発展につなげるために実施するものです。得点の高低や事業の優劣をつけるものではありませんので、率直な意見を記入してください。